

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査の伊勢原市結果の分析について

伊勢原市教育委員会

伊勢原市では、児童生徒の学力や学習状況に関し、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「平成28年度全国学力・学習状況調査」を実施しました。  
伊勢原市立小中学校の調査結果の概要をお知らせします。

【調査日時】平成28年4月19日（火）

【調査対象学年】小学校6年生 854人 中学校3年生 861人

【調査内容】

## 1 教科に関する調査

- ・ 国語A、算数A・数学A・・・主として「知識」に関する問題
- ・ 国語B、算数B・数学B・・・主として「活用」に関する問題

## 2 児童生徒に対する質問紙調査、学校に対する質問紙調査

【調査結果についての留意事項】

- 実施教科が国語、算数・数学の2教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること。
- 年度によって問題の質が異なるため、平均正答率の経年変化のみから、学力の向上、低下の傾向を評価することは難しいこと。

## 1 教科に関する調査の結果から

### (1) 平均正答率

小学校では、全国及び神奈川県と平均正答率と比較して、若干下回っているものの、±5ポイント以内の差であり、ほぼ同程度の結果となりました。中学校では、国語で若干上回る結果となりましたが、ほぼ同程度の結果となりました。

また、小中学校ともに、国語、算数・数学において「活用」に関する調査については、「知識」に関する調査結果と比べると正答率が低く、知識・技能を「活用」する力に課題が見られました。

《平成28年度教科に関する調査の平均正答数と平均正答率（％）（公立小中学校）》

小学校	国語A		国語B		算数A		算数B	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
伊勢原市	10.2	68	5.8	58	11.9	75	5.9	46
神奈川県	10.6	70	5.8	58	12.2	77	6.1	47
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

中学校	国語A		国語B		数学A		数学B	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
伊勢原市	25.0	76	6.2	69	22.3	62	6.6	44
神奈川県	24.9	75	6.0	67	22.3	62	6.6	44
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

## (2) 教科・設問ごとの分析結果

教科に関する調査結果について、各教科・設問ごとに分析したところ、習得の状況が良好であると見られる特長と指導の改善・充実が求められる課題とが見られました。

### ～主な特長と課題～

小	国語	特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと【A問題】</li> <li>・ 目的に応じて、図と表等と関係付けて読むこと【A問題】</li> </ul>
		課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと【A問題】</li> <li>・ 平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと、ローマ字で表記されたものを正しく読むこと【A問題】</li> <li>・ グラフを基に、分かったことを的確に書くこと【B問題】</li> </ul>
学 校	算数	特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り下がりのある減法の計算をすること【A問題】</li> <li>・ 不等号を理解していること【A問題】</li> <li>・ 示された条件をほかの場合について検討し、同じきまりが成り立つかを調べること【B問題】</li> </ul>
		課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解していること【A問題】</li> <li>・ 直方体における面と面の位置関係を理解していること【A問題】</li> <li>・ 示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述すること【B問題】</li> </ul>
中	国語	特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌に表れた作者の思いを想像すること【A問題】</li> <li>・ 相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すこと【A問題】</li> <li>・ 全体と部分との関係に注意して話を構成すること【A問題】</li> </ul>
		課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字の形や大きさ、配列に注意して書くこと【A問題】</li> <li>・ 文の成分の照応について理解すること【A問題】</li> </ul>
学 校	数学	特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正の数と負の数の加法の計算をすること【A問題】</li> <li>・ 整式の加法と減法の計算をすること【A問題】</li> <li>・ 比例の関係を表す表から変化や対応の特徴を捉え、<math>x</math>の値に対応する<math>y</math>の値を求めること【A問題】</li> </ul>
		課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明すること【B問題】</li> <li>・ 与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明すること【A問題】</li> <li>・ 垂線の作図方法について理解すること【A問題】</li> </ul>

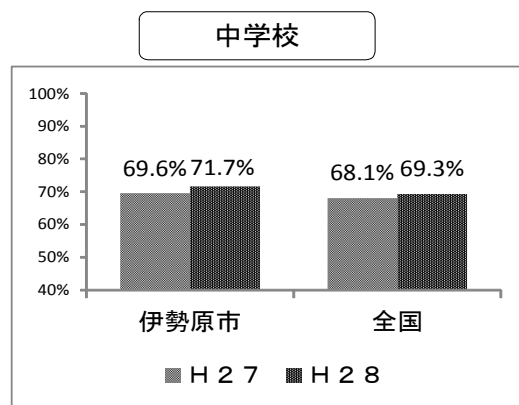
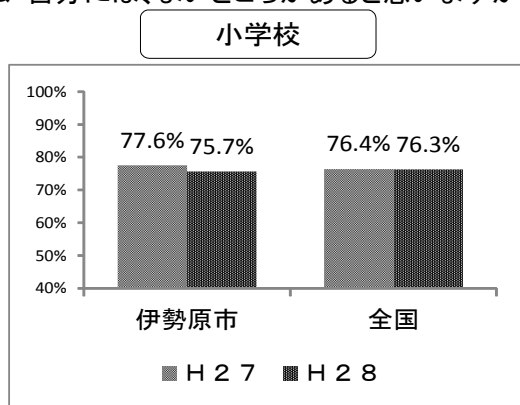
## 2 児童生徒質問紙調査の結果から

\* 各グラフの数値は、質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童生徒の割合を示す。

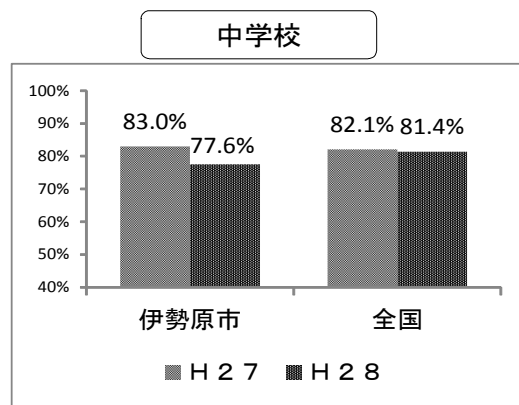
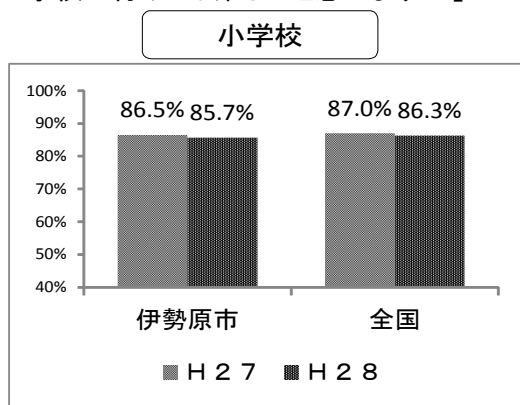
### (1) 児童生徒の生活に対する意識に関して

- 自分によいところがあると感じている児童生徒の割合や、学校へ行くのが楽しいと回答している割合は全国平均とほぼ同程度といえますが、児童生徒が自分の持ち味を發揮し、自己肯定感や自己有用感をなお一層高められるよう、道徳教育等、各校における教育活動の充実が望まれます。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している割合は、全体的に高い割合を示していますが、引き続き児童生徒の意識を高めていく必要があります。

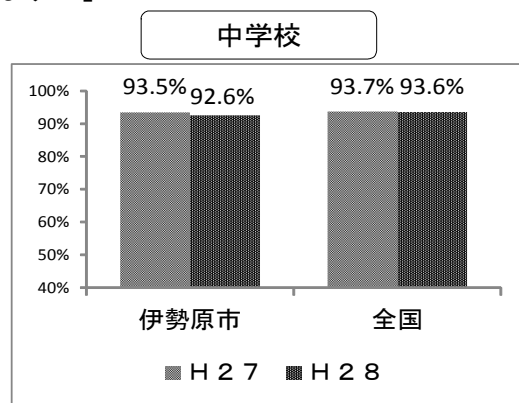
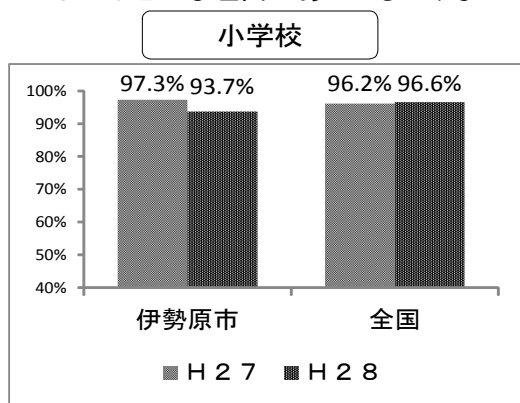
Q「自分には、よいところがあると思いますか」



Q「学校に行くのは楽しいと思いますか」



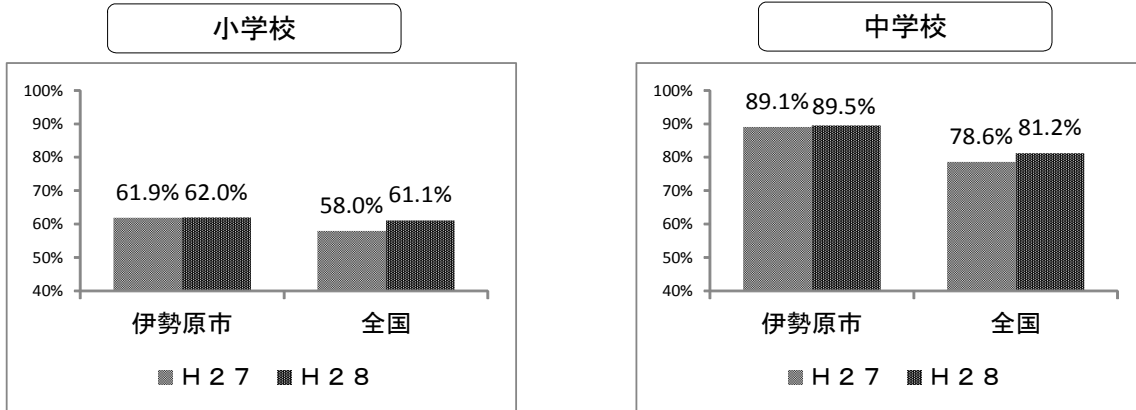
Q「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」



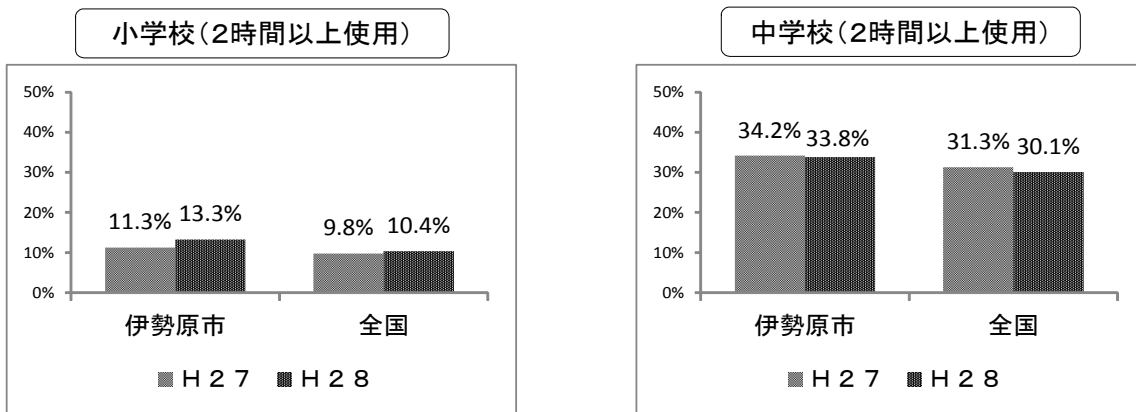
(2) メディアとの関わりに関して

- 携帯電話・スマートフォンの所持率は中学校で全国と比較して高く、また使用する時間もやや長い傾向にあります。
- テレビやDVD、ゲーム等（携帯・スマホ含む）を2時間以上行っている割合は、小学校で全国と比較して高い傾向にあります。
- 伊勢原市中学生からのスローガン「伝え合おう 大切なこと 互いの声で」「スマートフォンをスマートに ～大切なのは自制心～」をふまえ、家庭で保護者の方が子どもと「使い道」について話をする機会をもつことが大切です。

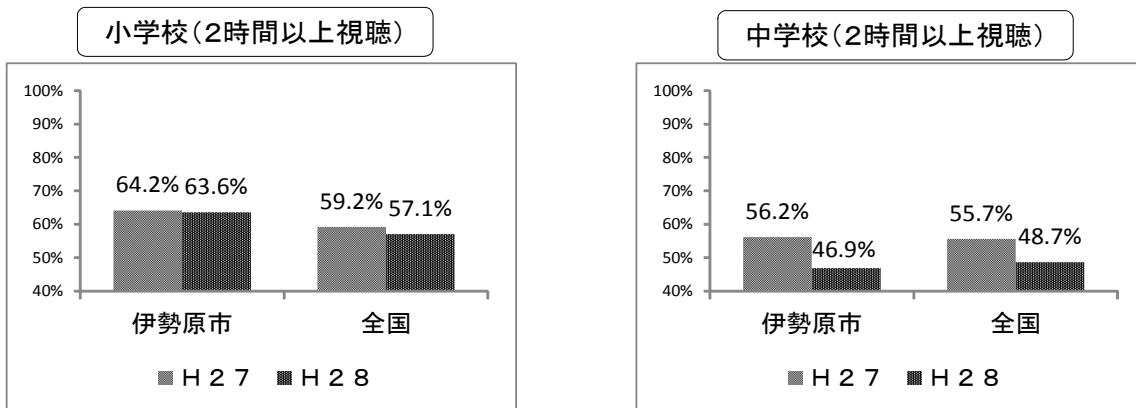
Q「携帯電話やスマートフォンを持っていますか」(「持っていない」と回答した数を差し引いた割合)



Q「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)」

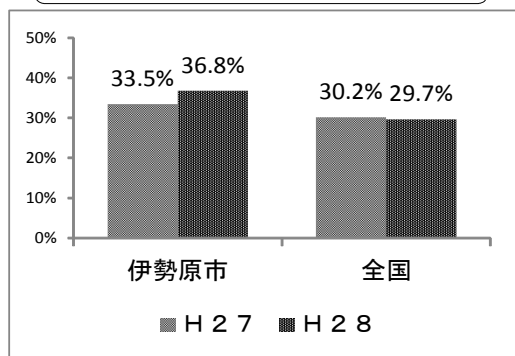


Q「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしていますか」

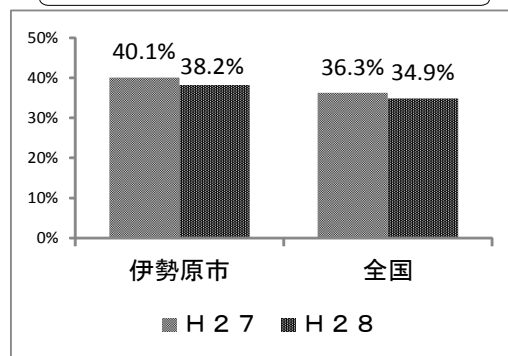


Q「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」

小学校(ゲームを2時間以上する)



中学校(ゲームを2時間以上する)

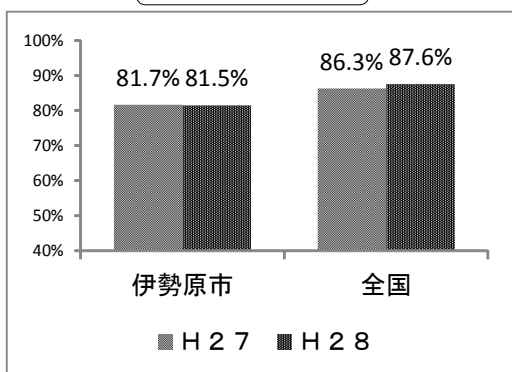


### (3) 児童生徒の授業の受け止め方に関して

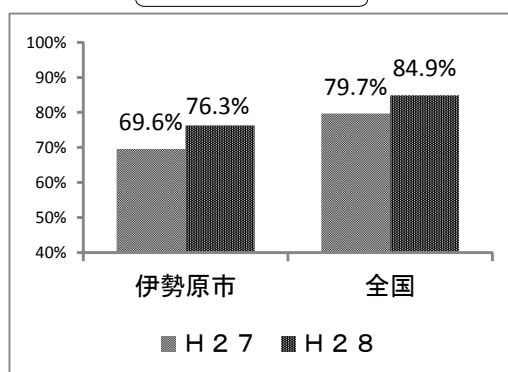
- これまで受けた授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていた、と感じている割合や、ノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと感じている割合は、小中学校ともに全国と比較して低い結果となりました。
- 授業の終わりに学習内容を振り返る活動をよく行っていると感じている割合は、全国と比較して、たいへん低い結果でした。
- 国の分析によると、授業のはじめに目標を示し、終わりに振り返る活動を行っている学校ほど、平均正答率が高い傾向が見られることから、学校においては学級や学校の実態に応じて取り入れていく必要があります。

Q「(これまで受けた)授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」

小学校

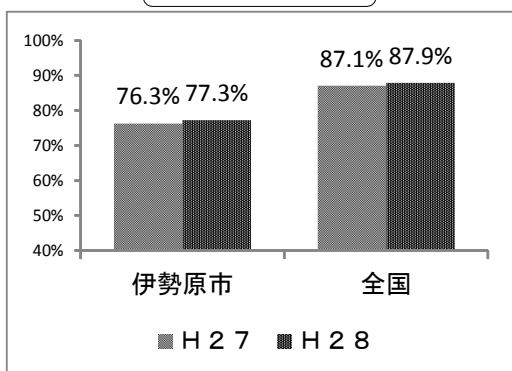


中学校

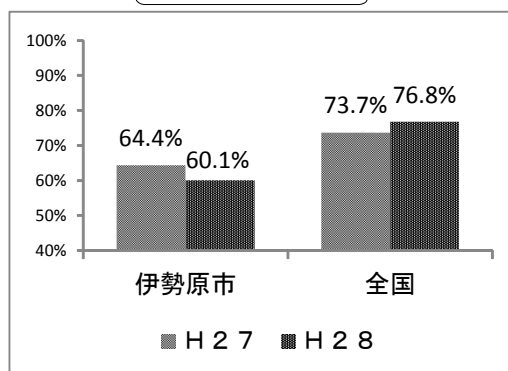


Q「(これまで受けた)授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか」

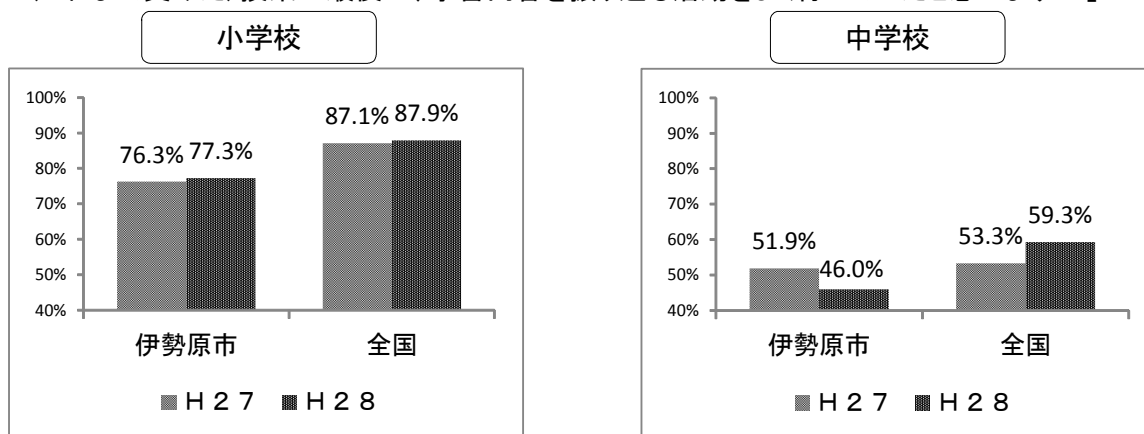
小学校



中学校



Q「(これまで受けた)授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」



### 3 児童生徒質問紙調査と教科に関する調査のクロス集計結果から

児童生徒質問紙調査の結果と教科に関する調査結果との関係を見ると、次のような児童生徒ほど、教科の正答率が高いという傾向が見られました。

- 朝食を毎日食べている
- 家の人と学校での出来事について話をしている
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある
- テレビゲームをしたり、携帯電話等で通話やメールをする時間が短い
- テレビやビデオ・DVDを見ている時間が短い
- 新聞を読んでいる
- 家で、学校の授業の復習をしている
- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている

### 4 学校がよりよい授業実践に向けて重視していきたいこと

各学校では、次のような点を重視し、全学年・全教科を通じて授業の充実を図る必要があります。

- ☆ 本時のめあてを子どもと共有する。
- ☆ 本時のめあてが達成できたか、本時で何が分かったか、振り返りを行う。
- ☆ めあて、自分の考え、本時のポイント、振り返りをノートに書かせる。
- ☆ 発問や指示を厳選し、子どもの考える時間（書く時間）・相談する時間・深め合う時間を大切にす。

#### 【小学校国語】

- 国語科はもちろん、その他の教科等における言語活動を通して、自分の考えをもち、それを表現できる力をつけること。
- 漢字、ローマ字などの読み書きは、繰り返し扱い、実際に活用することを通して身につけること。
- 読書を習慣化させるきっかけづくりを行うこと。

### 【小学校算数】

- 立式の根拠、問題場面や計算方法について、子どもたちに説明させること。その際、模範となる説明の仕方も提示すること。
- 図や式の意味を考えさせ、問題場面と関連づけること。
- 家庭学習を活用するなど、基礎基本の知識や技能を定着させる工夫を行うこと。

### 【中学校国語】

- 「付けたい力」を生徒に伝え、「付けたい力」を意識させながら学習を進めること。
- 「付けたい力」について効果的に指導するための言語活動を設定すること。
- 既習の内容を想起させるなど、指導の系統性を意識すること。

### 【中学校数学】

- 生徒が実際に作図し、その図形について見出した特徴が正しいかどうかを確認する活動を取り入れること。
- 前提となる条件が不足している場面では、ある条件を設定した際の結果を求めたり、ある結果になるために必要な条件を考えたりするなど、前提について追究すること。
- 実生活の場面では、資料やグラフなどを適切に読み取ったり、事象を数学的に表現し、その意味を的確に解釈したりすること。

## 5 家庭にお願いしたいこと

進んで学ぶ子どもを育てるために、家庭においても特に次の点について、ご指導をお願いします。

- 規則正しい生活習慣を心がけましょう。  
例) 早寝・早起き・朝ごはん、家庭学習や読書等の習慣 等
- 家族で、学校や社会での出来事について話をしましょう。
- 日常生活の中での「達成感」を大切にしましょう。  
例) 家庭の中で子どもに役割を与えましょう、子どものがんばりをほめましょう 等
- 地域の行事等に一緒に参加しましょう。
- テレビゲームや携帯電話・スマートフォン等の使い方について、話し合ひましょう。  
「伝え合おう 大切なこと 互いの声で」  
「スマートフォンをスマートに ～大切なのは自制心～」

(平成27年度伊勢原市中学生からのスローガン)

伊勢原市教育委員会では、家庭学習の手引きとして、冊子『**学びのすすめ**』を作成し、学校を通じて各家庭に配布しています。ぜひご活用ください。

参考) 冊子『**学びのすすめ**』は伊勢原市教育センターのウェブサイト内リンクリストからダウンロード出来ます。( <http://www.isehara.ed.jp/center/> )